

# 稲・大豆作情報 (NO. 7)

## 1. 水稻作況情報田の生育概況 (8月13日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	葉 齢	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/㎡	本 年	99.8	348	14.0	38.2	8月2半旬は、気温は高く(平年より+2.1℃)、降水量はかなり少なく(平年比0%)、多照(平年比163%)で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈:「夢しずく」はやや高く、「さがびより」は低い、「ヒヨクモチ」は平年並み。 茎数:「夢しずく」は平年並み、「さがびより」は少ない、「ヒヨクモチ」は多い。 葉齢:「夢しずく」、「ヒヨクモチ」はやや進んでおり、「さがびより」はやや遅れている。 葉色:「夢しずく」「ヒヨクモチ」は濃く、「さがびより」は淡い。
		平 年	94.7	358	13.3	36.3	
		平年比	(105)	(97)	(+0.7)	(+1.9)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.5株/㎡	本 年	69.9	384	12.9	32.2	
		平 年	82.4	452	13.8	35.2	
		平年比	(85)	(85)	(-0.9)	(-3.0)	
ヒヨクモチ 神崎市神埼町	6/21 19.0株/㎡	本 年	75.9	694	14.2	40.8	
		平 年	74.5	646	13.8	37.5	
		平年比	(102)	(107)	(+0.4)	(+3.3)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる

注3) 平年値は、過去10年間(H25~R5)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH25~R5年の平均値)

注4) ヒヨクモチは今回神埼町のデータを用いています

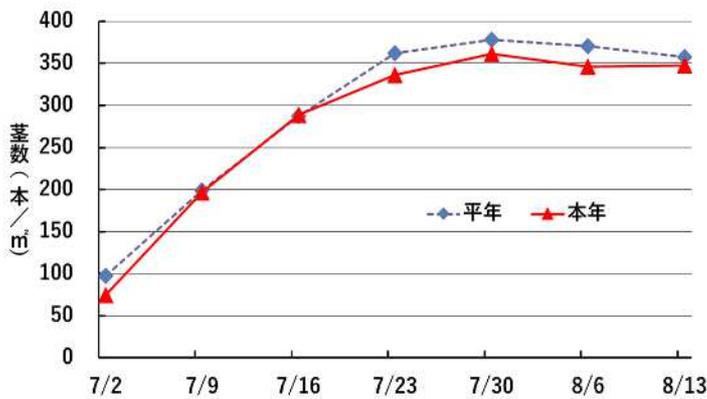


図1 夢しずく茎数の推移

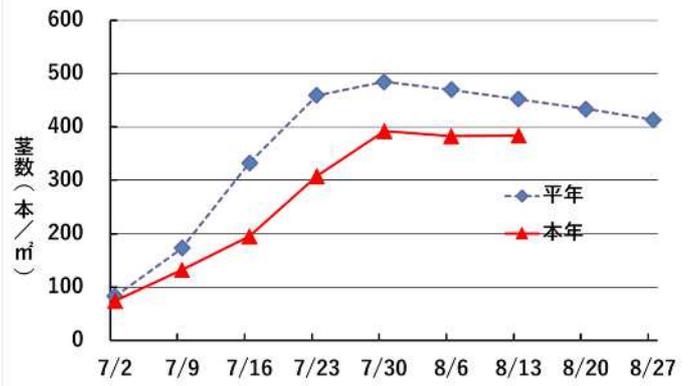


図2 さがびより茎数の推移

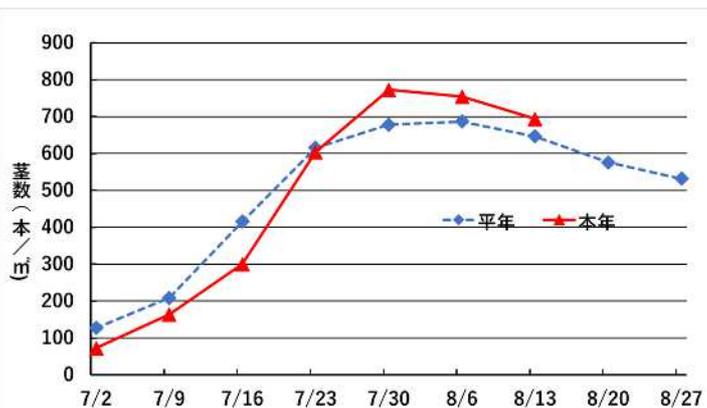


図3 ヒヨクモチ茎数の推移

◆農業試験研究センター米づくり情報 第7号 8月13日(抜粋)

本年産水稻の生育状況(8月13日)

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月18日	夢しずく	本年	100.3	360	13.5	37.8	[気象] 8月6日～8月12日まで ◆平均気温…平年より2.1℃高い(30.8℃) ◆日照時間…長い(平年比163%) ◆降水量…極端に少ない(平年比0%) [生育] ◆草丈 全ての品種で高い。 ◆茎数 「夢しずく」は少なく、「ヒノヒカリ」「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」はやや進んでおり、「さがびより」は平年並み。 ◆葉色 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」はやや濃い。
		平年	90.2	395	13.3	36.9	
		平年比(差)	111	91	+0.2	+0.9	
	ヒノヒカリ	本年	88.5	484	13.9	37.6	
平年		82.4	481	13.4	37.1		
平年比(差)		107	101	+0.5	+0.5		
6月20日	さがびより	本年	86.1	482	13.5	37.6	
		平年	78.2	479	13.6	35.7	
		平年比(差)	110	101	-0.1	+1.9	
	ヒヨクモチ	本年	77.0	671	14.0	35.4	
平年		71.5	623	13.8	35.8		
平年比(差)		108	108	+0.2	-0.4		
留意点	○「夢しずく」は、出穂はじめてである。 ○「さがびより」穂肥の時期となっている。「ヒヨクモチ」は間もなく穂肥時期を迎える。 (主茎幼穂長:「さがびより」4.7mm、「ヒヨクモチ」0.8mm) ○「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」で紋枯病の初発を確認した。						

注1) 耕起概要等は前号参照。

## 2. 水稻における今後の管理

○水管理 ～ 生育ステージに応じた適正な水管理を行う ～

### 「夢しずく」

- ・早植えの「夢しずく」(5月下旬～6月上旬移植)は、乳熟期となっている。
- ・普通期の「夢しずく」(6月中旬移植)は、出穂期を迎えている。
- ・出穂期以降は出穂後5日まで湛水管理とし、その後、根の活力維持と地固めのため間断灌水に移行する。

### 「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」

- ・「ヒノヒカリ」、「さがびより」は、幼穂形成期を迎えている。
- ・幼穂形成期以降は、稲が水を必要とする時期なので、穂揃い期まで浅水で湛水状態を保つ。
- ・「ヒヨクモチ」は、間もなく幼穂形成期を迎えるので、湛水管理に移行する。

### (全品種共通)

- ・今後も高温が続くと予想され、特に夜間の高温は、穂への養分転流が阻害され、登熟歩合の低下や白未熟粒発生による品質低下が懸念される。そこで、湛水管理を行う際に夕方以降の入水が可能であれば・・・  
⇒ 昼間の浅水 → 夜間の湛水管理を行い、なるべく地温を下げるよう努め、収量・品質の向上を図る。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

「ヒノヒカリ」

- ・「ヒノヒカリ」は、幼穂形成期であり、幼穂長が10～20mmとなっている。
- ・遅い穂肥は、米の蛋白含量が高くなり食味が落ちるため、幼穂長30mm以上の場合、穂肥は施用しない。

表1. 出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	22～20	19～18 (穂肥時期)	18～16	16～15
主稈の幼穂 (mm)	1～2	3～5	5～15	15～80

表2. 「ヒノヒカリ」穂肥診断基準

幼穂形成初期 の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	20.0
	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	3.0	20.0
	3.5～3.8	38～39	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	40以上	—	15～30mm	—	施用しない
80cm以上	3.0～3.5	34～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	38～39	16～18日	5～15mm	1.5	10.0
	3.8以上	40以上	—	15～30mm	—	施用しない

※幼穂長30mm以上の場合、穂肥は施用しない。

「さがびより」

- ・「さがびより」は、幼穂形成期であり、穂肥施用時期（幼穂長4～5mm）を迎えている。
- ・本年は、平年に比べ草丈が低く、分けつ数も少ないため「さがびより」の穂肥診断基準は、下記の県基準に準じた基準での診断とします。（平坦～山麓まで共通）

★「さがびより」の穂肥施用のポイント

- ①早くても幼穂5mmを確認してから施用する。
- ②出穂前18日（幼穂の長さ10mm）に施用。
- ③草丈が75cm以上で葉色が濃い（SPAD値37以上）場合は施用しない。
- ④草丈が75cm以下で、葉色が薄い（SPAD値33以下）場合は、2日程度早める。

表3. 「さがびより」穂肥診断基準

幼穂形成初期 (幼穂長1mm) の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33～37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37～38	16日	15mm	1.0	6.0
	3.8以上	39以上	施用しない			
75～80cm	3.0以下	36以下	18～20日	10～15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

※葉色が濃い圃場や幼穂長が15mm以上になっている圃場は、穂肥は施用しない。

## 「ヒヨクモチ」

- ・「ヒヨクモチ」は、8月15日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。
- ・穂肥は表4の施肥基準を参考に施用する。
- ・穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、土壤中に酸素を送り、根の活力を向上するため落水期間を確実にとる。なお、田面が緩い場合、収穫と麦播種作業の効率化を図るため、落水期間をやや長めにとる。

表4. ヒヨクモチの穂肥施肥基準

	穂肥Ⅰ施用量 (kg/10a)	穂肥Ⅱ施用量 (kg/10a)	実肥施用量 (kg/10a)
施用時期の目安	8月15~17日頃 (幼穂形成始期 幼穂長1ミリ頃)	8月25~27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月8日~10日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※「元肥一発肥料」を施用した圃場で、穂肥Ⅰ~Ⅱの時期に葉緑素計（SPAD）で40を切る場合には窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10~20kg/10a）施用する。

大豆跡の圃場では、穂肥の散布を控えるか上記施用量の5割未満に減肥して施用する。

## ○病害虫情報（発生および防除）

- ・現在、トビイロウンカ、コブノメイガの1回目の防除時期となっている。
- ・今後も高温・少雨が続く見込みであり、このような条件下では害虫の発生が多くなるため、圃場での発生状況を確認し、適期防除を実施する。

### ① 【トビイロウンカ】

- ・ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/23~、7/1~、7/10~）が確認されている。
- ・トビイロウンカの発生予測は、図1のとおりで、防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期（各幼虫期の前半）である。【有効薬剤：オーケストラ、エクシード、エミリア など】
- ・防除する場合は、湛水するとともに薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- ・展着剤を加用することで防除効果の安定化を図る（現段階では地上散布のみ）

### ② 【コブノメイガ】

- ・県内のライトトラップで7月中旬以降、断続的に誘殺されている。
- ・8月上旬の定期調査では、早植え水稻で発生率は「多」となっており、管内の一部圃場では成虫と幼虫が確認されている。
- ・今後、止葉を含む上位3葉に被害が発生すると減収につながるため、発生状況に注意する。
- ・コブノメイガの発生予測は、図2のとおりで、防除適期は幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）である。（但し、7月中旬以降は断続的に誘殺されており、各自圃場の状況を見ながら防除をおこなう。）

- ・上記の両害虫とも、品種別に発生状況は異なると考えられるため発生状況を確認し、適期防除に努める。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を、農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。





図1 トビウロウカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

暫定防除時期  
1回目 8/14~8/20  
2回目 9/12~9/20

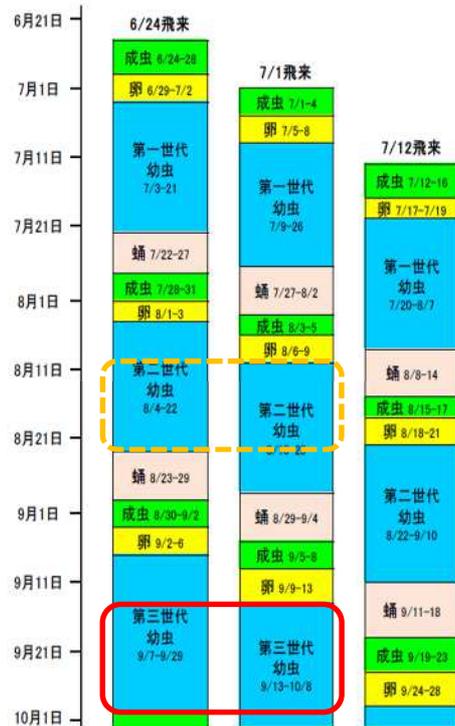


図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

暫定防除時期  
1回目 8/10~8/22  
2回目 9/13~9/29

### ③ 【斑点米カメムシ】

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、**出穂 10 日前までに畦畔除草を行う。**
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

表5. 各品種別の草刈り時期の目安

品種名	出穂期 (平年)	出穂 10 日前
夢しずく	8/16	~8/6 頃まで
ヒノヒカリ	8/27	~8/17 頃まで
さがびより	8/30	~8/20 頃まで
ヒヨクモチ	9/10	~8/31 頃まで

※出穂期 (平年) は、佐城管内における情報田のデータの平均値

### ④ 【紋枯病】

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっており、一部圃場で初発が確認される。
- ・近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展 (垂直進展) する時期に防除を徹底する。(液剤、粉剤の場合は出穂 10~20 日前を目安とする)
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

### 3. 大豆における今後の管理

#### 1) 大豆の生育状況

7月上旬頃に播種 → 本葉7～8葉程度

7月下旬頃に播種 → 本葉3～5葉程度

※同じ播種時期でも土壌水分の違いや降雨の有無で生育状況は異なる。



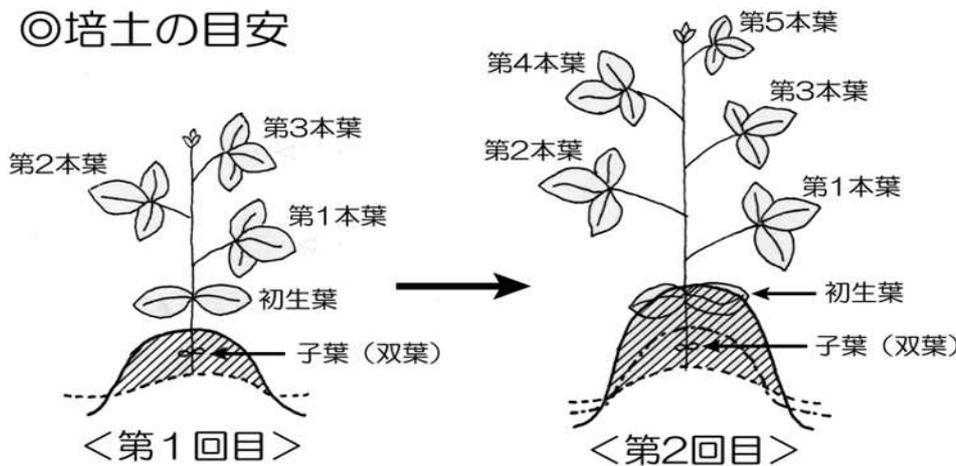
写真1 7月上旬播種 (8/13撮影) 写真2 7月下旬播種 (8/13撮影)

#### 2) 今後の管理

##### ○中耕・培土の実施

- ・播種時期が遅い圃場や土壌が乾燥した圃場では生育量が小さいため、生育量を確保するため培土を行う。
- ・今後、培土を実施する圃場では土壌の過乾燥を防ぐため、作業は夕方以降におこない、しっかり株元まで土寄せするよう留意する。(極度に乾燥した圃場では、培土は実施しない)
- ・開花後の培土は、断根や茎葉を傷つけ悪影響を及ぼすため、開花1週間前までに終了する。

#### ◎培土の目安



#### ○実施時期の目安

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度に行う。
- 2回目：本葉4～5枚の頃、初生葉が隠れる程度に行う。

※降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草防除を行きましょう。

#### ○干ばつ対策について

##### ① 乾燥で大豆が萎れ始めている圃場での対応

- ・梅雨明け後、降雨がほとんど見られず圃場の土壌が乾燥することにより、大豆の草冠が夜間も立っていたり、萎れ始めている圃場(写真1)が散見されます。このような圃場では、夕方以降にうね間灌水(※注1)を検討する。
- ・週間天気予報を見ると、晴天が続く予報のためコルゲート管の閉栓が土壌水分確保に有効である。

※注1：うね間灌水後は雑草の発生が多くなることから、早めに除草剤散布等の雑草対策を行う。

#### ◆大豆生育期間中に必要な水量



播種前～出芽期は排水対策

暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分を確保



大量の水を必要とする為、干ばつが予想される場合は灌漑が必要

←コルゲート管の閉栓

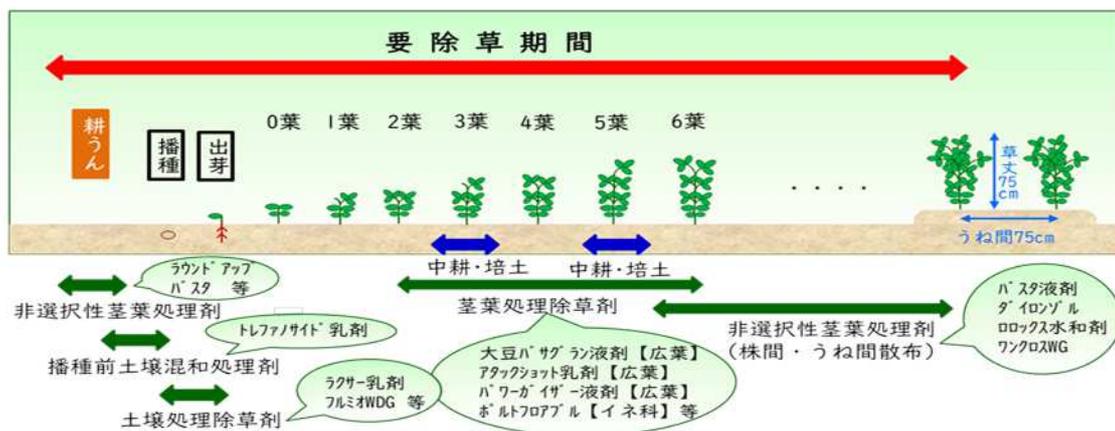


写真3 乾燥により萎凋した大豆

### 3) 雑草防除（生育期処理）

- ・雑草の発生が多い圃場では、中耕培土を実施し雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤（下記の目安を参照）を散布する。
- ・アサガオ類・ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内への侵入防止に努める。また発生が認められる圃場は、発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

図1. 除草技術と実施時期の目安



### 4) 病害虫対策（発生及び防除）

#### 【ハスモンヨトウ】

- ・8月の病害虫発生予察情報予察第5号（8月7日発表：大豆8月下旬）では、今後も高温・少雨が続き多発条件となり、予想発生量は「やや多」となっている。
- ・また、管内の一部圃場では白変葉が散見され、ハスモンヨトウの幼虫も確認されている。
- ・防除適期は、若令幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上（体長約2cm以上）になると、防除効果が低下するため、圃場をよく観察し適期防除を実施する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている時は、再防除が必要である。



#### 【オオタバコガ・ウワバ類】

- ・気象予報では高温・少雨が予測され、ハスモンヨトウと同様、今後の発生状況に注意する。
- ・葉に大きな穴が開いた株が目立ち、周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高く、ウワバ類やシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。

表1. 防除薬剤

名称	効果が高い薬剤	感受性低下が疑われる薬剤
ハスモンヨトウ	プレオ、ディアナ、ベネビア、グレーシア等	プレバソン
オオタバコガ	プレオ、グレーシア等	ノーモルト、トレボン
シロイチモジヨトウ	プレオ、グレーシア等	ノーモルト、トレボン

※オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンは感受性が低下しており、使用を避ける。

# 令和6年産水稻・大豆生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

佐城農業振興センター

